

令和 2 年度 さいたま市立大宮別所小学校 自己評価書

校長 和田 卓也 印

1 学校で設定した「令和 2 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 昨年度までの学校課題研究教科である算数科の取組を生かしつつ、新たに国語科の授業研究を通し、授業力を向上させ、日々の実践を充実させる。また、業前学習や家庭学習、読書活動を充実させ、確かな学力の向上を図る。一教育課程の編成・実施状況、各教科等の授業の状況
- (2) 「心を潤す 4 つの言葉」を身に付けさせるとともに、相手意識をもった挨拶の活性化を図り、児童相互の信頼関係構築やコミュニケーション力の育成を図る。一児童生徒の状況、生徒指導の状況
- (3) 「いじめ見逃しゼロ」に向け、心と生活のアンケートの活用等を通し、児童に寄り添いながら、いじめの早期発見に努める。『いのちの支え合い』を学ぶ授業を推進するとともに、教育相談、生徒指導、特別支援体制の充実を図る。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を図り、機動力のある組織づくりを推進する。一生徒指導の状況、いじめ防止の状況、不登校児童生徒への支援の状況、教育相談の状況
- (4) 学校安心メールの活用、学校だより、学校ホームページ、保健だより等の充実及び活用を通し、新型コロナウイルス感染拡大予防対策に応じた積極的な情報発信を行う。コミュニティ・スクールの円滑な運営を図り、地域との連携をさらに推進する。一学校と保護者、地域住民との連携の状況
- (5) 教職員一人ひとりが、児童・保護者・地域・同僚との信頼関係を構築し、互いを認め合いつつ、教職員の協力体制を強化し、教育活動を活性化させるとともに、各主任を中心に自校の学校教育目標を踏まえた主体的な組織活動を展開する。一組織運営の状況
- (6) 教職員の働き方改革を推進し、学校行事の見直し、会議の精選、設定を行う。一組織運営の状況

2 評価結果について

- (1) 保護者アンケート「学校は分かりやすい授業を行っている」への肯定的な回答は 88%、児童アンケート「授業はわかりやすい」への肯定的な回答は 95% に達している。また、教職員アンケート「学習内容を明確にした授業を展開している」への肯定的な回答は 9割に達し、指導力向上への関心が高まっている。本年は学年を中心とした授業研究を行うことで、より児童の実態に応じた授業改善が見られた。
- (2) 職員集会や校長からの「職員向けのお便り」を通じ、教職員自身への挨拶啓発を行うとともに、地域や学校でお世話になっている人を意識した挨拶の活性化に努めた。児童の 95.3% の児童があいさつができていますと回答しており、コロナ禍にあって昨年より 2% 以上の向上が見られる。しかし教職員の 52% (昨年比 20% 向上) はまだまだあいさつを課題ととらえており、更なる活性化が求められる。
- (3) 設問「悩みごとや困ったことがあったとき相談できる先生や友達がいる」に対し、93.4% の児童が肯定的な回答をしている。心と生活のアンケート後、朝相談タイムを設けることで、より児童理解を推進するとともに、悩みごとやトラブルの早期発見・早期対応に努めることができた。今後も保護者との連携を密にしなが、児童一人ひとりに寄り添った指導を推進していく。
- (4) 「情報公開」に関しては、今年度は学校公開や授業参観が実施できなかった分、学校だよりの情報公開紙面の拡充や、学校安心メールの適宜配信、学校HPの充実にも努めた。保護者アンケートによる「保護者・地域への情報公開が適切に行われている」への回答は 100% の肯定的な回答を得ることができた。今後はコロナ感染症対策に応じ、情報発信の取組に柔軟な工夫・改善を図るとともに、学校運営協議会での熟議をさらに活性化させ、教育活動に反映させていく。
- (5) 地域や保護者の要望に対する適切な対応についての肯定的な回答は 87% を超え、昨年度より 2% の向上が見られる。また教職員の「保護者・地域・教員」の連携・信頼関係については 97% の肯定的な回答が得られ、同じく 2% 向上している。本校教育目標「大きな夢 力いっぱい」を踏まえた教育活動が推進に向け、教育計画の改善を各分掌が進めることができた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・今年度の学校課題研究の成果を生かし、児童主体の学習活動をさらに充実させることで、学習意欲の向上を図る。研究成果の共有の在り方を改善することで、授業力の向上に向けた職員相互の働きかけを更に活性化させていく。
- ・学校内外での相手意識をもったあいさつの活性化に向け、学校・地域が一層協力して声かけを行っていきけるよう、教職員及び保護者双方の啓発を行っていく。
- ・GIGA スクール構想や SDGs 等の実現に向け、変化に柔軟に対応する組織づくりを目指す。また、効果的・積極的な研修を推進することで更なる教育課程の充実を目指す。